

報道関係各位

2014年10月7日

&lt; International Invisalign 2014 Peer Review Awards &gt;

**世界各国の優れたインビザライン治療症例の公式選出で**  
**日本人ドクター・佐本博先生の症例がトップ3を独占！**  
**～ インビザライン治療の進化・適応拡大を日本の症例が牽引 ～**

透明に近いマウスピース装置(アライナー)による矯正歯科治療「インビザライン・システム」を提供する Align Technology, Inc. (米国アライン・テクノロジー社)は、同社の海外地域(米国およびカナダを除く地域)におけるその年の最も優れたインビザライン治療症例を選出する「International Invisalign 2014 Peer Review Awards」を実施しました。

各国のインビザライン・ドクターによる公正な投票の結果、2014年度は、Peer Review Awards が始めて以来初めて、ヨーロッパ・アジア諸国のドクターを抑え、日本人ドクター佐本博先生・青山アール矯正歯科院長(東京都港区)の治療症例が1位・2位・3位を同時受賞しました。佐本博先生は2012年度に日本人ドクターとして初めて1位を受賞して以来、3年連続の1位受賞となります。6月27日(金)に、シンガポールで開催された「The 2014 Invisalign Asia Pacific Summit」にて受賞が発表されました。

「International Invisalign Peer Review Awards」は、米国アライン・テクノロジー社の海外地域における各国のインビザライン・ドクターから提出された治療症例を掲載する「International Invisalign Gallery」(<http://intl.invisaligngallery.com>)から、その年の優れた治療症例を選出するインビザライン治療で最も栄誉ある賞です。

インビザラインによる矯正治療は、担当ドクターの治療計画によっても大きく左右されます。日本人特有の不正咬合に対して日本人ドクターがインビザライン治療を探究していくことで、インビザラインは益々の進化を遂げています。

※受賞した治療症例の解説は次頁以降をご覧ください。

## &lt;医療関係者様からのお問い合わせ先&gt;

アライン・テクノロジー・ジャパン株式会社 カスタマーサポート

TEL:0120-944-187 (平日 10:00~17:00)

E-mail: info-japan@aligntech.com

## &lt;報道関係者様からのお問い合わせ先&gt;

アライン・テクノロジー・ジャパン株式会社 広報担当 株式会社プラップジャパン 山下・平井・田村

TEL:03-4580-9106 FAX:03-4580-9132 E-mail:s-yamashita@prap.co.jp

◇ 「International Invisalign 2014 Peer Review Awards」 1 位

#162 「Class I, Openbite, Narrow Arches, Crowding」

佐本 博 先生（青山アール矯正歯科院長）

< 治療前 >

- ・ 患者は 20 歳女性。前歯部の叢生(ガタガタ)を主訴に来院
- ・ 側貌はややコンベックスタイプ(口元が突出型)のプロファイル
- ・ 口唇閉鎖時のオトガイ部に筋の緊張が認められた
- ・ 前歯部に叢生、開咬が認められた
- ・ セファロ分析の結果、上下前歯の唇側傾斜が認められ、FMA(下顎下縁平面角)は 38 度であった

< 治療 >

- ・ 口元の突出感、上下前歯歯軸の改善、叢生の除去を目的に上下両側第一小臼歯の 4 本を抜歯
- ・ 上下顎両側第一小臼歯の抜歯スペースの閉鎖を行う際、固定源である臼歯が近心傾斜するのを防止する目的で上顎 4 前歯と犬歯の牽引を 3 回に分割して行う
- ・ 初回プログラムのマウスピース装着がすべて終了後、下顎両側第一小臼歯の近心傾斜が認められたため、再度印象を行い改善のためのマウスピースを追加した
- ・ オトガイ部の緊張、口元の突出感は改善され、機能的にも良好な咬合が確立されたので保定に移行

< 治療結果 >

- ・ 左右側の犬歯、犬歯関係の I 級、適切なオーバージェット、オーバースタックが確立された
- ・ 治療前後のパノラマ、セファロレントゲン写真の分析の結果、歯根の平行性は確立され、下顎下縁平面の開大や歯根吸収も認められず良好な結果が得られた
- ・ 治療成功のポイントは、抜歯スペース閉鎖時の固定源損失を予防することを考慮した治療シミュレーションの作製、II 級顎間ゴムの使用開始時期および使用期間を考慮したケースマネジメントである
- ・ 来院回数 18 回、治療期間はトータル 26 か月。ブラケットやワイヤー、インプラントアンカーを使用せずに小臼歯 4 本抜歯ケースの治療が完了できた



(治療前)



(治療後)

※詳細は「International Invisalign Gallery」(英語)をご覧ください。

<http://intl.invisaligngallery.com/treatment/162-2/photos/>

◇ 「International Invisalign 2014 Peer Review Awards」 2 位

#178 「Class II div 1, Openbite, Crowding」

佐本 博 先生（青山アール矯正歯科院長）

< 治療前 >

- ・ 患者は 27 歳女性。前歯部の叢生(ガタガタ)を主訴に来院
- ・ 側貌はややコンベックスタイプ(口元の突出型)のプロファイル
- ・ 上顎両側第二小臼歯、下顎右側第二小臼歯にインレーが装着されている
- ・ 上下歯列とも著しい叢生が認められる
- ・ セファロ分析の結果、上下前歯の唇側傾斜が認められ、FMA(下顎下縁平面角)は 43.7 度、ドリコフェイシャルタイプであった

< 治療 >

- ・ 叢生、上下前歯歯軸の改善を目的に上下小臼歯 4 本の抜歯を計画
- ・ 健全な歯を保存する目的でインレーが装着されている上顎両側第二小臼歯、下顎右側第二小臼歯とその対称に位置する下顎左側第二小臼歯を抜歯した
- ・ 上下顎両側第二小臼歯の抜歯スペース閉鎖を行う際、固定源の臼歯が近心傾斜するのを防止する目的で上下両側第一小臼歯の牽引と同時に、上顎 4 前歯と犬歯の牽引を 3 回に分割して行う
- ・ 初回プログラムのマウスピース装着がすべて終了後、患者がさらなる前歯の舌側への移動を希望したので、再度印象を行い改善のためのマウスピースを追加した
- ・ オトガイ部の緊張、口元の突出感は改善され、機能的にも良好な咬合が確立されたので保定に移行

< 治療結果 >

- ・ 左右側の犬歯、犬歯関係の I 級、適切なオーバージェット、オーバーバイトが確立された
- ・ 治療前後のパノラマ、セファロレントゲン写真の分析の結果、歯根の平行性は維持され、下顎下縁平面の開大、歯根吸収も認められず良好な結果を得られた
- ・ 治療成功のポイントは、抜歯スペースを閉鎖する時の反作用として起こるアンカレッジロスを予防することを考慮した治療シミュレーションの作製、ケースマネジメントであると考え
- ・ 来院回数 19 回で治療期間はトータル 28 か月。ブラケットやワイヤー、インプラントアンカーを使用せずに上下両側第二小臼歯 4 本抜歯ケースの治療が完了できた



(治療前)



(治療後)

※詳細は「International Invisalign Gallery」(英語)をご覧ください。

<http://intl.invisaligngallery.com/treatment/178-2/photos/>

◇ 「International Invisalign 2014 Peer Review Awards」 3 位

#147 「Class III, Midline Shift, Anterior Crossbite, Crowding」

佐本 博 先生（青山アール矯正歯科院長）

< 治療前 >

- ・ 患者 14 歳男性。前歯部の反対咬合（受け口）を主訴に来院
- ・ 側貌はストレートタイプのプロファイル
- ・ 前歯部に著しい叢生、反対咬合が認められた
- ・ 両側大臼歯関係は AngleClassIII
- ・ セファロ分析の結果、下顎の前方への過成長が認められた

< 治療 >

- ・ 上顎歯列の前方および側方拡大、下顎歯列の側方拡大と IPR(ディスクリング)によるスペースの確保を行い、アーチフォームと叢生の改善を計画
- ・ 初回プログラムのマウスピース装着がすべて終了時に上下前歯部の早期接触、それによる臼歯の離開咬合が認められたため、再度印象を行い改善のためのマウスピースを追加した
- ・ III級顎間ゴムを併用しながら下顎歯列全体を遠心、上顎歯列全体を近心へ誘導した
- ・ 叢生や前歯反対咬合は改善され、機能的にも良好な咬合が確立されたので保定に移行

< 治療結果 >

- ・ 左右側の犬歯関係 I 級、適切なオーバージェット、オーバーバイトが確立された
- ・ 治療前後のパノラマ、セファロレントゲン写真分析の結果、歯根の平行性は維持され、下顎下縁平面の開大、歯根吸収も認められず良好な結果を得られた
- ・ 治療成功のポイントは、治療途中の前歯早期接触による臼歯離開咬合に対して適切な治療シミュレーションの作製、III級顎間ゴムによるケースマネジメントを行ったこと
- ・ ブラケットやワイヤーを使用せずに非抜歯で重度叢生、反対咬合の治療が完了できた



(治療前)



(治療後)

※詳細は「International Invisalign Gallery」(英語)をご覧ください。

<http://intl.invisaligngallery.com/treatment/147-2/photos/>